

みんなキラリと

vol.2 アンコンシャス・バイアスってなに？

ある父親とその息子が交通事故に遭いました。父親はその場で息を引き取り、重症の息子は急いで病院に運び込まれました。手術室で外科医はその少年を見て言いました。「この子は私の子です」

この文章を読んで「どうして事故で亡くなったはずの父親が生きているの？」と感じた方も少なくないと思います。

文章内の外科医は、亡くなった父親の妻であり病院へ運ばれた子の母親であったわけですが、この「外科医＝男性」という見方が、アンコンシャス・バイアス(unconscious bias)と呼ばれるものです。「無意識の思い込み」を意味しています。

▶問合先 市役所人権推進課(文化会館) 人権推進G
☎48-7911

市では、誰もが自分らしく暮らすことのできるまち「ダイバーシティもりや」の実現を目指し、守谷市ダイバーシティ宣言を制定しました。このコーナーでは、さまざまな多様性を自分ごととして見つめてもらうため、毎回異なるテーマをご紹介します。

よくあるアンコンシャス・バイアスの例

- ・血液型を聞いて、相手の性格を想像する
- ・「親が単身赴任中です」と聞くと、まず父親を思い浮かべる
- ・定時で帰宅する人を「仕事へのやる気がない」と思う
- ・「保育士」と聞くと、エプロン姿の女性を思い浮かべる

アンコンシャス・バイアスは、日常にあふれていて、誰もが持っているもので、あること自体が問題ではありません。また、自分の過去の経験や見聞きしたことから自然に培われるものですので、そのものに良し悪し也没有ありません。

ただ、知らず知らずのうちに誰かを傷つけてしまったり、自分の可能性を狭めてしまったりすることがあるので、アンコンシャス・バイアスの存在を認識し、気がつくことが必要です。



NEXT

vol.3 アンコンシャス・バイアスの対処法？